

## ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは夏季に流行する小児の代表的なウイルス感染症です。今回は、ヘルパンギーナの今夏の患者流行状況と病原体サーベイランスによって確認できたウイルスの検出状況について報告します。

2016年のヘルパンギーナは、2012年、2014年と同等に大きな流行となりました(図)。6月～8月に小児科定点から報告があった患者数は6198人で、1歳の1620人が最も多く、次いで2歳が1269人、3歳953人、4歳780人、5歳482人、1歳未満416人の順でした。

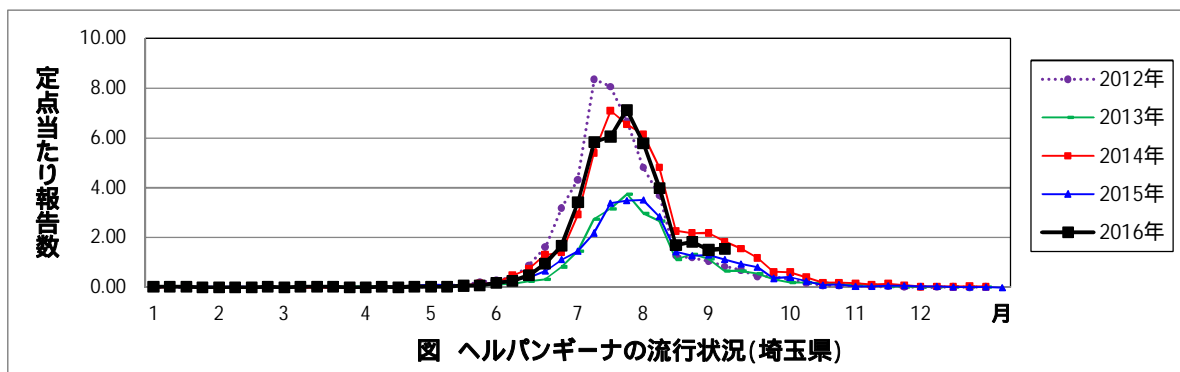


図 ヘルパンギーナの流行状況(埼玉県)

一方、6月～8月に小児科病原体定点で採取され、当所で検査を実施したヘルパンギーナの検体は42検体(6保健所管内)でした。このうちコクサッキーウイルスA群(CA)は26検体(5保健所管内)から検出されました。最も多かった型はCA4で16件(5保健所管内)、次いでCA5が7件、CA10が2件、CA6が1件でした。CA4が検出された患者は1歳以下(68.8%)が多く、CA5の患者の年齢には偏りは認められませんでした(表)。

表 ヘルパンギーナ検体から検出されたコクサッキーウイルスA群の型別数

型	計	1歳未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳以上
CA4	16	3	8	1	2	1	0	1
CA5	7	0	1	2	1	1	1	1
CA6	1	0	0	0	0	0	0	1
CA10	2	0	1	0	1	0	0	0

2016年の県内におけるヘルパンギーナの起因ウイルスは、CA4が主流で、CA5が準じていたと考えられます。CA4は2012年、2014年に比較的多く検出された型でした。全国的にも同様の結果\*が得られています。また、CA4は7月に急性脳炎の患者1人からも検出されており、脳炎との関連も否定できません。

県内での流行状況を知るためにも、病原体定点医療機関の先生方の積極的な検体採取をお願いいたします。

\* <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/4892-iasrgnatus.html>